

2010年横浜国際大会シンボルマークについて

東京センテニアルYサービスクラブ 日詰一彦

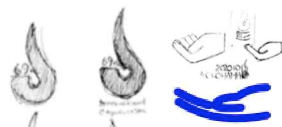
応募の大会テーマを見た時、手の平にそっと包み込んで



大切なものを差し出す様に、未来に向けてトーチの炎が手の平の上で燃えているという構図が浮かびました。

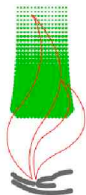
当時は北京オリンピック直前でしたが、大会で使用されている聖火リレーのシンボルマークや既存の他のマークに近似しない様に、また、国や文化が異なっても、さらに誰が見ても判る様に配慮しながらアイデアを練って行きました。

デザインを進める内、



「テーマの背景にあるものは

やはり「愛」。それをなんとか表現したい」との思いが湧いて来たので、燃え盛るトーチの火の粉が祭りに集まった



人々に降り掛かり祝福する様に、私達の思いが無数の愛の火の粉となって世界中に広がって行くイメージを、トーチの先端をハートの火の粉にすることで表現しました。

炎の「緑青」色は、人間の「知」や自然（空/海/植物）を、「2010」は「熱意」を象徴し、ワンポイントで目立つ様に補色にあたる「赤」としました。

最後に、白黒で使う場合はどうか、印刷で文字が小さくなり過ぎ読み難く無いか、テーマコピーとの配置はどうかなど、様々な媒体に使われることを検証し、応募案の決定となりました。



採用決定後、手の平部分やトーチのカタチをモデファイしましたが、大会シンボルマークが出来上がるまでと、その意図はお判り頂けましたでしょうか。

今回、シンボルマークについてお話させて頂くことで、一層ご理解頂き、大会成功への一助となれば幸いです。